

## 2026\_0227 「ジンチョウゲの香り」日々の理科 4219号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

大学構内の片隅に咲くジンチョウゲの花。冬のあいだ、冷たい風にさらされながらも、この常緑の低木は葉を落とすことなく静かに季節を耐え抜いてきました。厚く光沢のある葉の中心では、早くから小さな花穂が少しずつふくらみ、春の訪れを準備していました。まだ多くは固いつぼみのままですが、気の早い株だけが淡い桃色の花をほころばせています。

その存在に最初に気づかせてくれるのは、姿ではなく、ふわりと漂う甘く上品な香りです。歩いていてふと足を止め、「あれ、もう咲いたのか」と周囲を見回してしまう——そんな花です。この香りを感じると、不思議と胸の奥に時間の流れがよみがえり、「ああ、そろそろ卒業式の季節だな」と思います。冬の終わりと新しい旅立ちを知らせる、大学ならではの季節の合図が、今年も静かにキャンパスに満ち始めています。

